

第 206 回 東葛しぜん観察会

理窓公園で秋を感じる

残暑に隠れた小さな秋(草花・樹木・鳥など)を探しながら歩く

高橋 重 (我孫子市)

日 時 : 2025 年 9 月 20 日 (土) 9:30~12:00

場 所 : 利根運河土手~理窓会記念自然公園 (野田市)

参加者 : 23 名 (内 小学生 2 名)、指導員:16 名、担当指導員:長谷川、杉本、高橋

昨年秋の理窓公園観察会は雨天中止となり、今年も同じコースで秋を探すことになった。9 月 9 日、酷暑の中、担当 3 名で下見に出かけた。運河土手はセイバンモロコシが生い茂り、花の咲いた植物がほとんど見当たらない。土手下のメタセコイア付近は草ぼうぼうのやぶ状態。2 人が「鎌」を用意していたが、草を刈っても小道が作れそうにないほど。ひょうたん池を西へと折り返すあたりは「スズメバチ注意」の看板が立ち、巣の周りでブンブンと飛んでいる。調整池付近は草が刈られ、観察を予定していたヤブガラシの花は残っていない。これでは秋を感じるどころではない。当日はどうなることやらと不安が募るばかり…。ところが観察会前日の 19 日、太平洋高気圧が弱まり、待ちに待った大陸からの移動性高気圧による「秋が来た」。千葉県北西部の 20 日午前中の降水確率予報は 30%、前日に下見をした杉本さんから「運河駅近くでヒガンバナが見られた、公園内でアキノタムラソウが咲いた」との連絡もあり、数日前までの杞憂はかなり吹き飛んだ。

運河駅を出発し、最初に土手斜面のセイバンモロコシの指が切れそうな葉縁を触り、それがガラス質だとルーペで観察する。ツルボがあちこちに咲き、頭部が赤いマメハンミョウがそれを食べている。「触っては駄目」と渋谷さんの声。捕まえたトノサマバッタを見て「ブローチにいいね、ショウリョウバッタは駄目だけど」など楽しい会話が少しずつ増えてくる。対岸にはアオサギが留まっている。やぶ回避のルートでは目の高さでドングリの仲間:クヌギ、シラカシ、アラカシの殻斗や葉の違いを観察し、今年結実したばかりの赤ちゃんクヌギを探してルーペで確認する。すぐ隣にはムクノキの実が生り「予想以上に甘い」との声も上がる。ピンクの花が美しいヌスビトハギやキツネノマゴには「これ何ですか」との質問も出る。3 班の長谷川さんが説明するキツネノマゴの花言葉を盗み聞きして参加者に伝える。女性美の極致か、なるほど。クズの花が多く咲く所ではクンクンといい香りを嗅ぎ、蜜も吸って甘さを感じる。さらにクズの茎から採った繊維をもとに会員が織った葛布には「思ったより柔らかいね」との感想が聞かれた。秋らしい植物が観られはじめ、ネコハギの葉の毛を触り、ヤマハギ・フタバハギ・マルバハギなどを見る。「ワレモコウを観ていただきたかったのですが」と来た道を戻りかけると参加者からは「観ましたよ」との返答。その先では鈴木(俊)さんが準備したペットボトルにエゴノキの「実と泡立ちセット」をシェイクしてなるほどと納得される。日陰の観察路に落ちている数枚の葉がついたドングリ(コナラとクヌギ)を拾い、枝先と殻斗の小さな穴を観てもらおう。ハイイロチョッキリがドングリに穴をあけて産卵し、葉がついたまま枝ごと切り落としたものだと写真で説明すると、ドングリの殻斗をジッと見直していた。

カタバミの近くで飛ぶヤマトシジミ、ノブドウとエビヅル、センボンヤリの閉鎖花、アキカラマツの花のつくり、クサギの匂い、ヤマハッカとアキノタムラソウなど「残暑の中に隠れた小さな秋」がたくさん見つかりました。参加の皆さんも「五感」で秋を楽しまれたことと思います。



エゴノキの実で石鹸泡立ち



ハイイロチョッキリが実と枝を切り落とし